

癒やしの花作り学ぶ

園芸療法講座に51人

淡路市野島常盤の県立淡路景観園芸学校で21日、花作りを通じて心身を癒やす「園芸療法」に携わるボランティアの養成講座が開かれた。島内をはじめ神戸市や加古川市など県内外から51人が参加。園芸療法の基礎を学んだり、車いすの操作を体験したりした。

この養成講座は生涯学習課程「まちづくりガーデナーコース」の一つとして昨年度から始まった。今年度は定員30人に対し、地域で花作りや福祉に取り組み人たちが参加。同校の園芸療法課程などで学生を指導する豊田正博・景観園芸専門員が講師を務めた。

参加者は教室で、植物の効用や園芸療法士の仕事について説明を聞き、病気や障害がある高齢者との接し方を学んだ。その後、実習用の花壇が並ぶ「園芸療法ガーデン」で車いすの操作を体験。2人1組になって交代で高齢者役とボランティア役を務め、「動

車いすを押し花壇の周囲を移動する参加者」淡路市の県立淡路景観園芸学校



り」と声をかけあいながら車いすを押ししたり、花の種類を教えあったりして花壇の周囲を回った。
尼崎市の公園で花作り活動に取り組む浦富健二さん(61)は「講座で学んだことを生か

し、高齢者や障害者に喜んでもらえるような活動をしていきたい」と話していた。
養成講座は5月19日にも開

かれ、利き手が不自由な人を手伝うとの想定で、植木鉢を使った寄せ植えを実習する。

平成20年4月23日(水)
朝日新聞(朝・夕)版
28頁 淡路版